



慢性腎臓病 (CKD) 猫での食事療法とリン吸着剤の使用により血中FGF23濃度が改善した症例

症例プロフィール

基本/疾患情報

雑種猫、16歳4か月齢、
去勢雄、4.7kg。

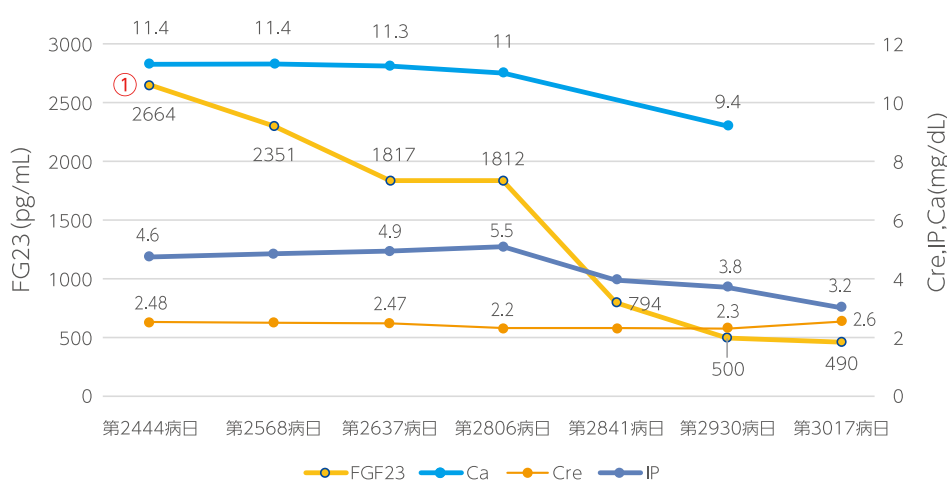
来院目的

定期健康診断の受診を目的に来院。

診断

第1病日に血液検査の結果から
CKDステージ1と診断。

(図1) FGF23と腎関連項目 血中濃度の推移



治療内容・経過

ステージ1と診断してから定期的に経過観察している症例。治療法としては第2231病日から腎臓病用療法食とサプリメントを使用している。

第2444病日

血中IP濃度は参考基準範囲内であったが、リン・カルシウム代謝異常の確認のため血中FGF23濃度を測定し高値(図1-①)が認められた。

第2568～2806病日

第2568～2637病日の間で血中FGF23濃度が徐々に下がるのを確認したが、第2806病日では血中FGF23濃度に変化が見られなくなったため、リン吸着剤をサプリメントから水酸化アルミニウム剤へ変更することとした。

第2841～3017病日

血中FGF23濃度は水酸化アルミニウム剤へ変更して以降、数値がさらに低下した。臨床症状は大きな変化は無く安定していた。

考察

本症例は長期間にわたりCKDの治療をおこなっており、比較的安定した経過を追っている症例である。

追加検査としてFGF23を測定し、血中FGF23濃度が高値を示している事で体内でのリン・カルシウム代謝異常が存在していることが確認できた。

血中IP濃度は一定の値で推移していたが血中FGF23濃度が高値であったためサプリメントの増量やリン吸着薬への変更により、リン・カルシウム代謝異常の改善につながったと考えられる。

本症例は腎臓病用療法食とリン吸着剤の併用により血中FGF23濃度が低下を示す事ができた。

今後も定期的にFGF23も測定して経過を追っていく。

【症例提供・監修】 浜松市 橋本動物病院 院長 橋本雄一郎先生